

# 風土記の丘の花だより<sup>312</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2026年3月14日)

少し前、ちょっと寒の戻りがありましたが、もう春になるでしょう。というか、なってほしいものです。春の花が次から次へと咲き始め、歩くのが楽しい季節がやってきました。まずは、今年も見事に咲いてくれたハクモクレンから紹介することにしましょう。



万葉植物園を過ぎて右に曲がるあたりが花木園とよばれるエリアです。毎年そこに白い花が咲きます。ハクモクレンとコブシです。いつも奥の2本が先に咲き始めます。今年もそうでした。大きな木なので、下まで行くと見づらいです。道からご覧になった方がいいかもしれません。コブシは、まだまだつぼみが堅そうで、あとしばらくかかりそうです。この二つの花が同時に咲くタイミングがあるので、両者を見比べて見ると、違いが分かりますが、コブシの花には緑色の葉が1枚付いているのが、簡単な見分け方です。



これは谷村家住宅で撮ったユキヤナギです。名前のとおり木の枝に雪が積もって枝垂れているので、まさに「雪柳」ですね。うまく名前を付けたものです。ヤナギと付きますが、もちろんヤナギの仲間ではありません。ヤナギの仲間はこんなきれいな花びらのある花を咲かせませんからね。ユキヤナギはバラ科の木です。小さいですが、花をよく観察すると、5枚の花びらがあるのがわかります。同じくバラ科のウメやサクラなどの花と似ていますね。



ご存知ふきのとうです。漢字で書くと「蒨の臺」という難しい字です。ふきのとうはキク科のフキのつぼみです。フキはスーパーで見かける細長い、あのフキです。売っている野菜のフキは、このフキを改良して作ったものです。

写真はまだつぼみが強く花が咲いていませんが、咲くと小さな写真のようになります。雄花と雌花がありますが、写真の花は雄しべが目立つので雄花でしょう。



アミガサユリが小早川家住宅の庭や万葉植物園で咲き始めました。一般的な百合のように大きくなく、3センチほどの小さな花が下向きに咲きます。花びらに網目模様があるので、「編み笠百合」と名付けられました。春一番に咲き始める花の一つです。別の名前をバイモ「貝母」やバイモユリといますが、それは球根の形が二枚貝に似ていることによります。これから花だよりに載せる花選びが忙しくなります。 松下